

労働政策研究・研修機構労働政策フォーラム  
変化する若者へ向きあうキャリア・ガイダンス

NIMURA H

若者の変化の意義と育成すべきスキル

2010. 10. 21

二村 英幸  
にむら ひでゆき

文教大学 人間科学部

hnimura@koshigaya.bunkyo.ac.jp

# もくじ

- 若者の変化に戸惑う
  - 戸惑いの経験
- 戸惑いの背景
  - 社会の成熟と機能不全
- 育成すべき能力・スキル
  - 理論的
  - 政策的
  - 産業界からの発信
- 育成の方略
  - キャリア教育への注力
  - 学生の学ぶ力
- まとめ

# 若者の変化に戸惑う

# 大学において直面する戸惑い例

## 個人的な経験を中心に

NIMURA H

- 午後3時を過ぎて、寝坊したからと授業に遅刻をする。
- 教師の指導を受けながら、mailで友人とやりとりする。
  - 友人同士でも会話とmailの複線コミュニケーションをする。
- 教師に対してもため口で話しかけてくる。
- 講義は眠くなるから、ビデオでも流して欲しいと求める。
  - テレビをみる感覚で授業に臨む。
- (ランチを1人でトイレで食べる。)

# 企業において直面する戸惑い例

## 見聞きする範囲で

NIMURA H

- 有名大学卒・運動部出身・明るく元気な学生。全寮制の新入社員研修中に、自費でワルームを借りて寮にほとんど戻らず、同僚と交流しようとしなない。
- 有名大学卒で能力も性格も申し分ないが、1から10まで、つきっきりで教えないと仕事が進められない。
- 大学院卒ですぐれた技術をもつも、先輩と同じような成果をあげられない・・・と必要以上に落ち込む。
- 一生懸命に頑張りすぎてしまい、ついには体調を崩す。  
(職場ではよくがんばる新入社員として感心して励まされる。)
- 自分が仕事ができないのは、先輩・上司がきちんと教えてくれないから・・・と怒りを爆発させる。

# 戸惑いの背景

社会の成熟と機能不全

# 社会の発展に伴う変化

NIMURA H

- 無人化が進んだ生活空間
  - 生きた人間との直接的な交流の激減
  - 現実と錯誤しがちなバーチャルな世界の浸潤
- 家族・地域社会の変質
  - 核家族化
  - 近所づきあいの希薄化
- 技術革新の急速な進展
  - 労働市場のグローバル化
  - 非正規という働き方
- 格差社会化
  - 勝ち組・負け組
  - 努力と成果の関連性
- ゆとり教育
  - PISAショック

# 社会性・利他性という人間の本质

NIMURA H

- そもそも、個人の現実とは、他人とともにあり、他人とともに生きるしかない。個人の満足は、本質的に他人のために自分のものを犠牲にし、他人が満足するよう手助けするという意味を持つ
  - ヘーゲル(1807).精神現象学、長谷川 宏訳(1998).作品社
- 人の心は、社会の中で生きようにはできている。人間ほど互恵的利他的行動を進化させるのにぴったりの生き物に他ならない。
  - 佐藤統(1997).進化の挑戦.角川選書
- 人間は利己的な生き物などではなく、もともと利他的な動物であったし、今でも利他性を失っていないということである。
  - 門脇厚司(2010).社会力を育てる---新しい「学び」の構想.岩波新書



# 育成すべき能力・スキル

# 社会力の豊かな人間のイメージ

NIMURA H

- 人間が大好きな人間
- どんな人ともうまくコミュニケーションできる人間
- 他の人といい関係がつけれる人間
- 他の人と協力しながら物事を成し遂げることができる人間
- 他の人の身になり、立場に立って物事を考えられる人間
- 他の人を思いやれる人間
- 物事に対して常に前向きに取り組もうとする人間
- 何事にも創意工夫を怠らぬ創造的な人間
- 自分も社会の一員であるという自覚がある人間
- 社会の運営に積極的に関わろうとする意欲のある人間
- 自分の能力を活かし、家庭や地域や職場で自分の役割を果たせる人間
- 社会の改善や改革にも積極的に関わろうとする意欲のある人間
- 広い視野から社会の動きや社会の動向を判断できる人間
- 自分の行動が他の人や社会の動向にどう影響するかを考えながら行動できる人間
- 人類社会の将来に常に思いを馳せながら行動できる人間

# 実践的能力・スキルの概念

## 理論的

NIMURA H

- **実践的知能** Practical Intelligence
  - Wagner, R.K. and Sternberg, R.J. (1986). Practical Intelligence: Nature and Origins of Competence in the Everyday World. Cambridge University Press.
- **情動的知性** Emotional Intelligence
  - Goleman, D. (1995). Emotional Intelligence: Why It Can Matter More Than IQ. Bantam. 土屋京子訳(1996)、EQこころの知能指数、講談社.

# 実践的能力・スキルの概念

## 政策的

NIMURA H

### ● 人間力

- 内閣府・人間力戦略研究会
- 職業生活・市民生活・文化生活
- 市川伸一編(2003).学力から人間力へ.教育出版

### ● 社会人基礎力

- 経済産業省
- 前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力
- 経済産業省(2007).社会人基礎力の育成と評価.河合塾

### ● 学士力

- 中央教育審議会(2007).学士課程教育の再構築に向けて(審議経過報告)

### ● 就職基礎能力

- 厚生労働省(2004).若年者就職基礎能力支援事業(YES-プログラム)
- コミュニケーション能力・職業人意識・基礎学力・ビジネスマナー・資格取得

# 実践的能力・スキルの概念

## 海外の動き

NIMURA H

### ● キー・コンピテンシー

- Rychen, D.S. & Salganik, L.H. (2003). Key Competencies for a successful life and a well-functioning society. 立田慶裕監訳 (2006). キー・コンピテンシー. 明石書店.

### ● ジェネリックスキル

- Stasz, C. (1995). Classrooms That Work: Teaching Generic Skills in Academic and Vocational Settings. RAND Corporation.

# 育成すべき能力・スキル

## 産業界からの発信

NIMURA H

- 1950～1960年代
  - 経済の高度成長の進展
  - 専門性向上・理系中心の量的拡大
- 1960年代末～1970年代後半
  - GNP世界第2位・オイルショック
  - 大学の大衆化・学力格差拡大懸念
- 1980年前後～1990年代前半
  - 第3次産業化
  - リベラルアーツ・創造性・独創性への期待
- 1990年代～
  - 新産業・新事業の創出
  - 汎用的リテラシー・スキルの要求

# 産業界からの発信・・・まとめ

飯吉、2008

NIMURA H

## ● クリティカルシンキング

- 与えられた情報や知識を鵜呑みにせず、複数の視点から注意深く、論理的に分析する能力や態度
- ①目的の設定
- ②問を立てる
- ③情報を収集分析する
- ④概念を利用する
- ⑤仮定・想定を認識する
- ⑥議論の枠組み・総体的展望を盛り込む
- ⑦帰結・含意を生み出す
- ⑧結論・結果・解決策を導く

## ● キャリアデザイン力

- クリティカルシンキングを主体的かつ豊かな人生やキャリアの創造のために用いる。

# 育成の方略



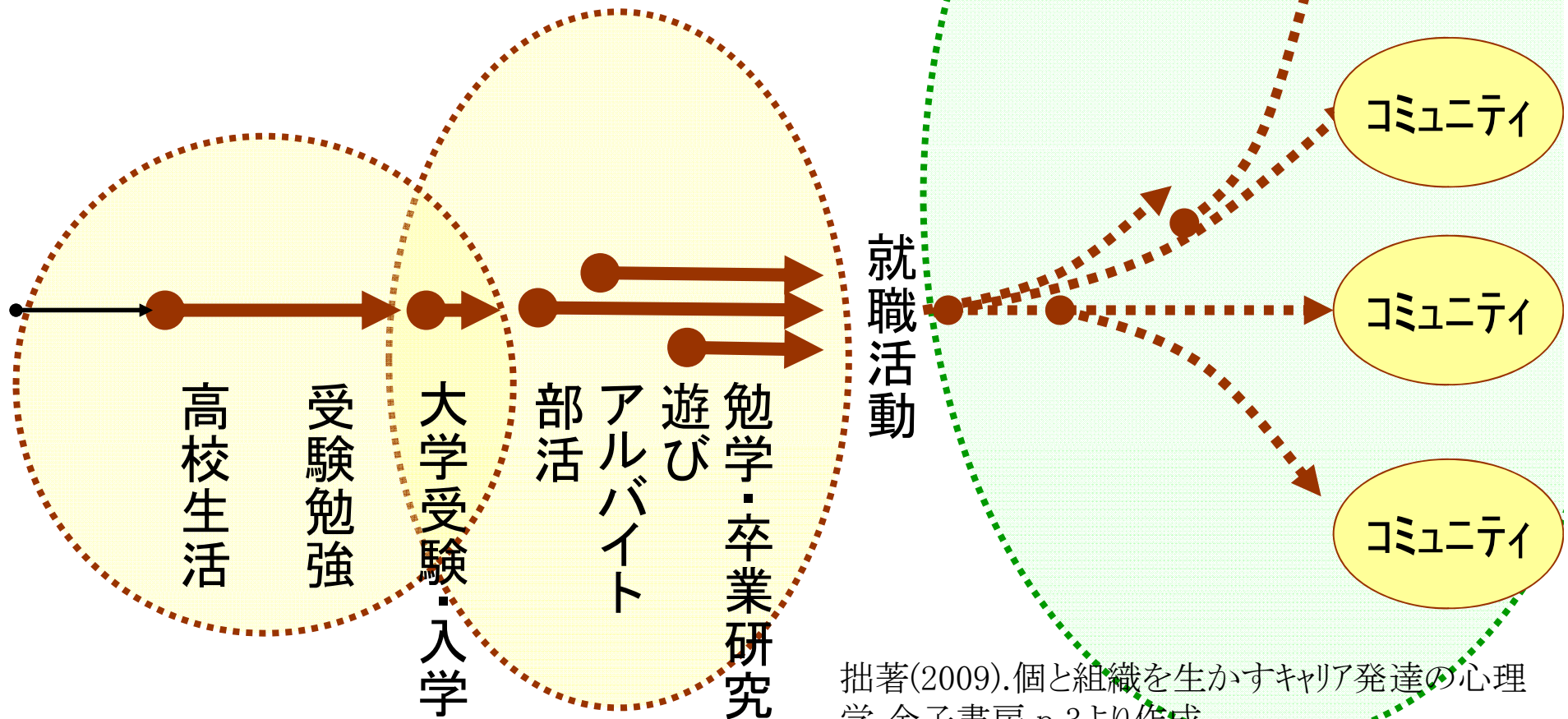
# 学校教育と職業との接続

NIMORAH

単元的・絶対的  
アウトサイドイン

キャリア教育

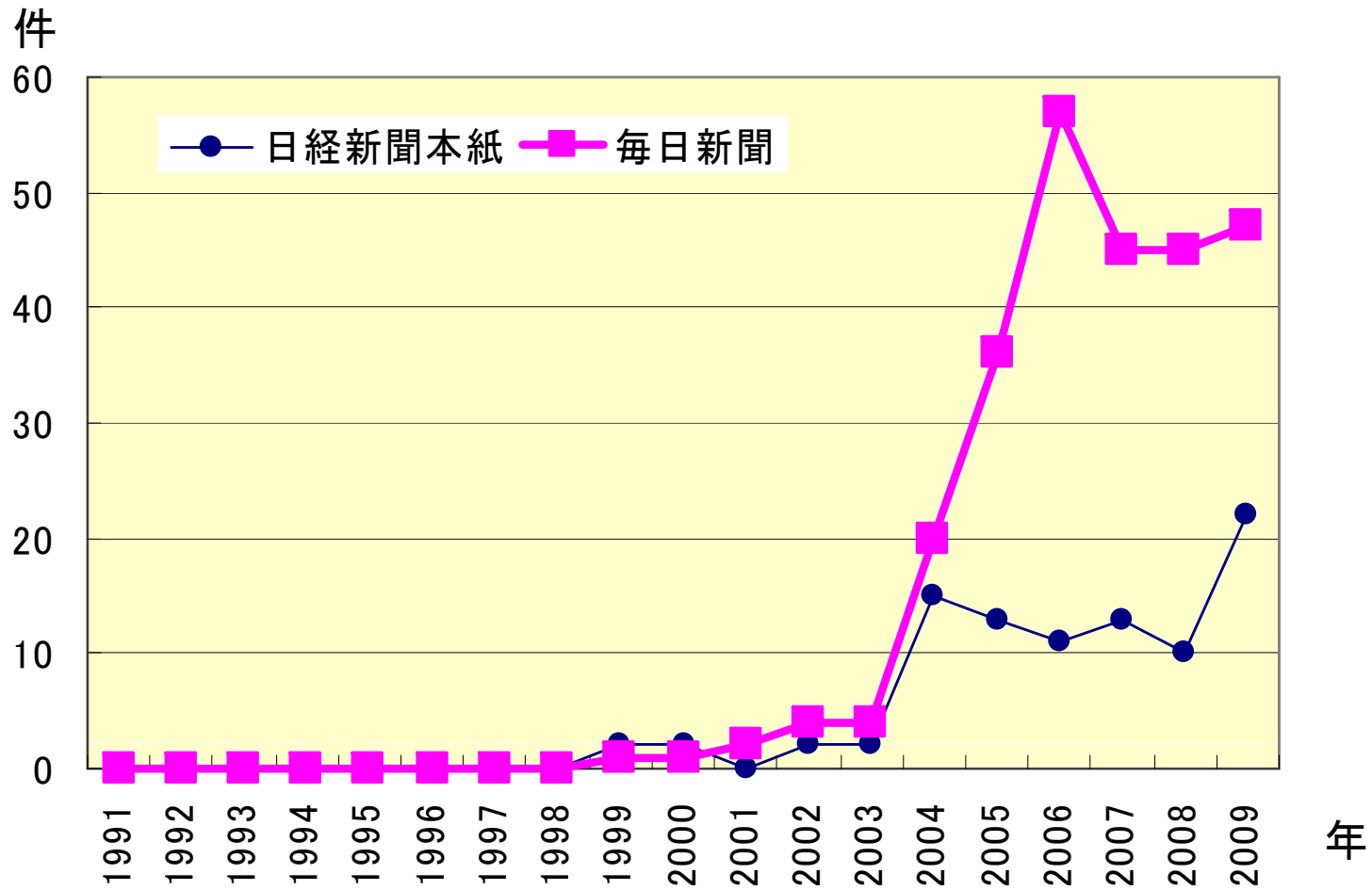
多元的・相対的  
インサイドアウト



拙著(2009).個と組織を生かすキャリア発達の心理学.金子書房,p.3より作成

# 「キャリア教育」の用語

NIMURA H



中央教育審議会答申

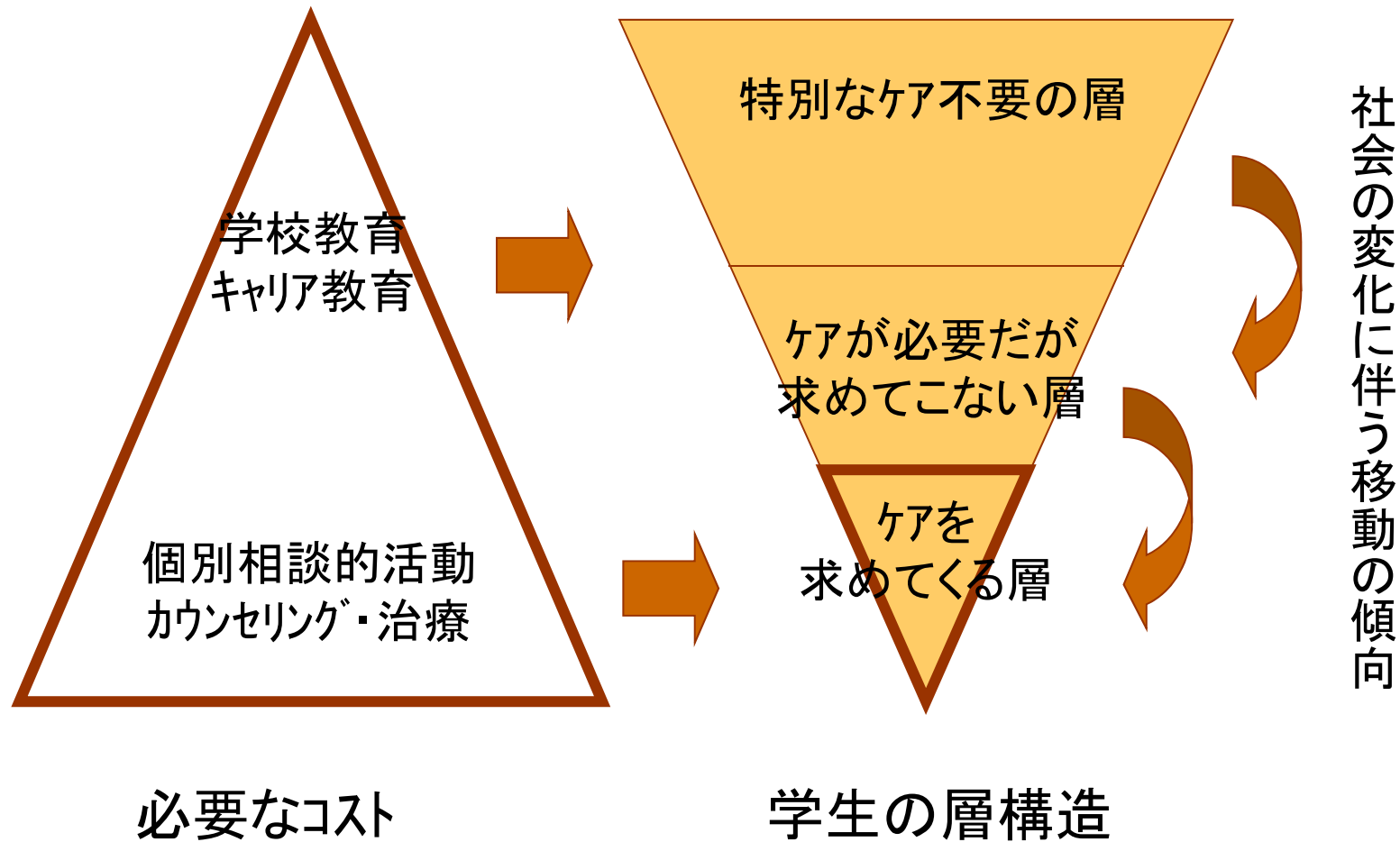
# 育成の難しさ

NIMURA H

- 『きまった答えを出すことを学問と考え、自分は学問ができるという自信をもって大学に入ってくる生徒に、大学は、その態度をうちくだいて、自分で問題をつくる方向にむけて馬首をたてなおすことができるだろうか』
  - 鶴見俊輔(2010).教育の再定義の試み.岩波書店 ,p.15

# 学生の層構造とキャリア教育・支援のコスト

NIMURA H



# 社会人基礎力育成のキャンペーン

## 経済産業省

NIMURA H

### 社会人力を競う 大学コンテスト

経産省

経済産業省は9日、社会人に求められる能力の育成を全国の大学が競う「社会人基礎力育成グランプリ」を開くと発表した。授業やゼミ、実習などを通じ、参加者がどれだけ成長したかを教員や学生が説明し合う。11月末から全国6カ所で予選を開催し、来年3月9日の決勝大会で優勝チームを決める。

# 大学が提供する機会・経験

## 教員として

NIMURA H

- 自己管理の経験
  - 日常生活の習慣の促進(時間管理・体調管理)
- 自律的な目標設定と課題解決の経験
  - 目標設定・計画策定・解決行動・成果の確認
- 友人などとの人間関係を広げる経験
  - 異性・異なったタイプのクラスメンバーとの交流促進
- クラス・グループ活動に参画する経験
  - 意見のアピールと折り合いの場の提供
  - クラス・グループへの貢献と相互支援をする場の提供
- 社会や家族との関係を深める経験
  - 企業人とのふれあい・家族との会話促進

# 学生の学ぶ力

## 学びの期待感

NIMURA H

- ため口は友人がたしなめて、言葉遣いに変化。
- 『何か、私はみんなと少し感覚が違うようだ。』
  - サーベイ結果の相互インタビューを受けて
- 『脚が震えたけど、何とか説明できた。わかりやすかった、と言われた。人と話すのは苦手で簡単には直せないけど……。』
  - プレゼンテーションの経験を受けて
- 『もともと消極的なほうだが、実習では積極的に提案・貢献しようとして行動した。それができた。これはグループメンバーのおかげだと感謝。』
  - グループワークの実習で学んだこと「1分間スピーチ」にて
- 『就活を通じて、規則正しい生活を送れるようになった。目が覚めたら起きる・眠くなったら寝る生活から脱出できた。』
  - 就活を振り返って(内定を得た4年生)
- 『新聞を読んで、もっと世間を知っていこうと思った。』(複数)
  - クラスメンバーの「新聞を読んで視野を広げたい」というコメントを聞いての感想

# 若者の変化の意義と育成すべきスキル

## まとめ

NIMURA H

- 若者の変化は、社会の変化
  - 若者だけが変わったわけではない。
  - →『変化する社会へ向きあうキャリア・ガイダンス』  
Cf. 地球温暖化の変化への対応
- キャリア・ガイダンスは、次世代育成システムの一環
  - 若者の機会と経験から学ぶ能力に期待
  - キャリアガイダンスは育成システムの最後の砦
  - こぞって「若者を育て、支援する」努力の積み重ね  
“Successful Life & Well-Functioning Society”